

洪水リスクファインダー（無償版）

使用マニュアル

Flood Risk Finder (free version)

User's Manual

2024年3月

March 2024

MS&AD

MS&AD InterRisk Research & Consulting

目次 (English version is below.)

1. 洪水リスクファインダーへのログイン	1
1.1 InterRisk ID とアカウントの新規登録.....	1
1.2 洪水リスクファインダーへのログイン方法	1
2. 洪水リスクファインダーの操作方法	2
2.1 洪水リスクファインダー初期画面の項目説明	2
2.2 ハザードマップ（無償版）について	3
(1) 概要.....	3
(2) 無償版とプレミアム版の仕様について	3
(3) 操作方法	3
(4) 解釈上の注意点	4
2.3 洪水頻度変化予測について	5
(1) 概要.....	5
(2) 操作方法	5
(3) 解釈上の注意点	6
3. プレミアム版ハザードマップの購入申請手順	6
3.1 購入申請の流れ	6
3.2 拠点情報をプラットフォームにアップロード	6
<アップロード用ファイルの入力方法・注意事項>	7
3.3 アップロードした拠点情報の確認と購入申請	8
4. 問い合わせ先など	9
参考 1. 既存の InterRisk ID にアカウントを追加する方法	10
参考 1.1 ユーザーを 1 名ずつ追加する方法	10
参考 1.2 ユーザーをまとめて追加する方法	11
参考 2. エラー関連の対応について	12
参考 2.1 アップロード用ファイル(csv 形式)アップロード時	12
参考 2.2 BOM 付き utf-8 への変換について.....	13
参考 2.3 “〇〇行目の CSV フォーマットが不正です”の解消方法について	14
参考 3. 用語集	15
参考 3.1 気候変動関連.....	15
参考 3.2 災害関連	15

Contents

English Version	17
Flood Risk Finder (free version) User's Manual.....	17
1. Login to Flood Risk Finder	18
1.1 Registering an InterRisk ID and Account	18
1.2 Logging in to Flood Risk Finder	18
2. Operating Flood Risk Finder	19
2.1 Items on the Initial Screen of Flood Risk Finder.....	19
2.2 Hazard Map (free version).....	20
(1) Overview	20
(2) Specifications of the Free and Premium Versions.....	20
(3) Operation.....	21
(4) Notes on Interpretation.....	21
2.3 Prediction of Flood Frequency Change.....	22
(1) Overview	22
(2) Operation.....	22
(3) Notes on Interpretation.....	23
3. Requesting Purchase of Premium Version Hazard Map	23
3.1 Requesting Purchase Process.....	23
3.2 Uploading Location Information to the Platform.....	24
<Entries and Notes on the Upload File>	24
3.3 Confirming Uploaded Location Information and Requesting Purchase	25
4. Inquiries, etc.	27
Reference 1. Adding Accounts to an Existing InterRisk ID	28
Reference 1.1 Registering Users One by One.....	28
Reference 1.2 Registering Bulk Users	29
Reference 2. Troubleshooting	30
Reference 2.1 Errors Stemming from the Upload File (CSV format)	30
Reference 2.2 Conversion to UTF-8 with BOM	31
Reference 3. Glossary	32
Reference 3.1. Terms on Climate Change	32
Reference 3.2 Terms on Disasters.....	33

1. 洪水リスクファインダーへのログイン

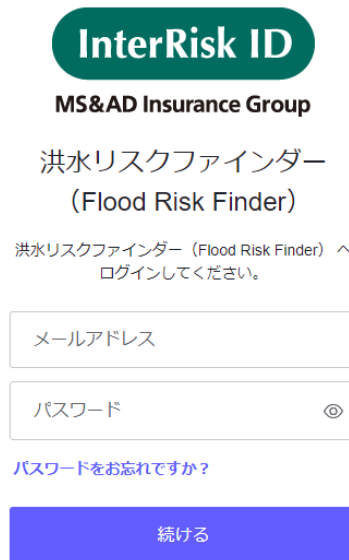
1.1 InterRisk ID とアカウントの新規登録

洪水リスクファインダーを新規で使用するには、事前に InterRisk ID^{※1}とアカウントの登録が必要です。洪水リスクファインダーの専用 Web ページ（以下「専用 HP」と言います。）からサインアップボタンをクリックする、もしくは、[こちら](#)からアクセスして登録してください。

なお既に作成している InterRisk ID にアカウントを追加する場合は、[参考 1. 既存の InterRisk ID にアカウントを追加する方法](#)を参照ください。

1.2 洪水リスクファインダーへのログイン方法

専用 HP からログインボタンをクリックする、もしくは、<https://larc.irric.co.jp/>にアクセスすると、図 1 の画面が表示されます。登録したメールアドレスとパスワードを入力してログインしてください。




InterRisk ID

MS&AD Insurance Group

洪水リスクファインダー
(Flood Risk Finder)

洪水リスクファインダー (Flood Risk Finder) >
ログインしてください。

メールアドレス

パスワード 

[パスワードをお忘れですか?](#)

続ける

図 1 ログイン画面

※1 InterRisk ID は、MS&AD インターリスク総研が提供する複数のサービスに対する共通 ID です。サービス利用開始時に発行される ID であり、サービス利用時に必要となります。

2. 洪水リスクファインダーの操作方法

2.1 洪水リスクファインダー初期画面の項目説明

洪水リスクファインダーにログインすると図 2 のようなマップが表示されます。図 2 の赤枠の数字順にそれぞれの項目を説明します。

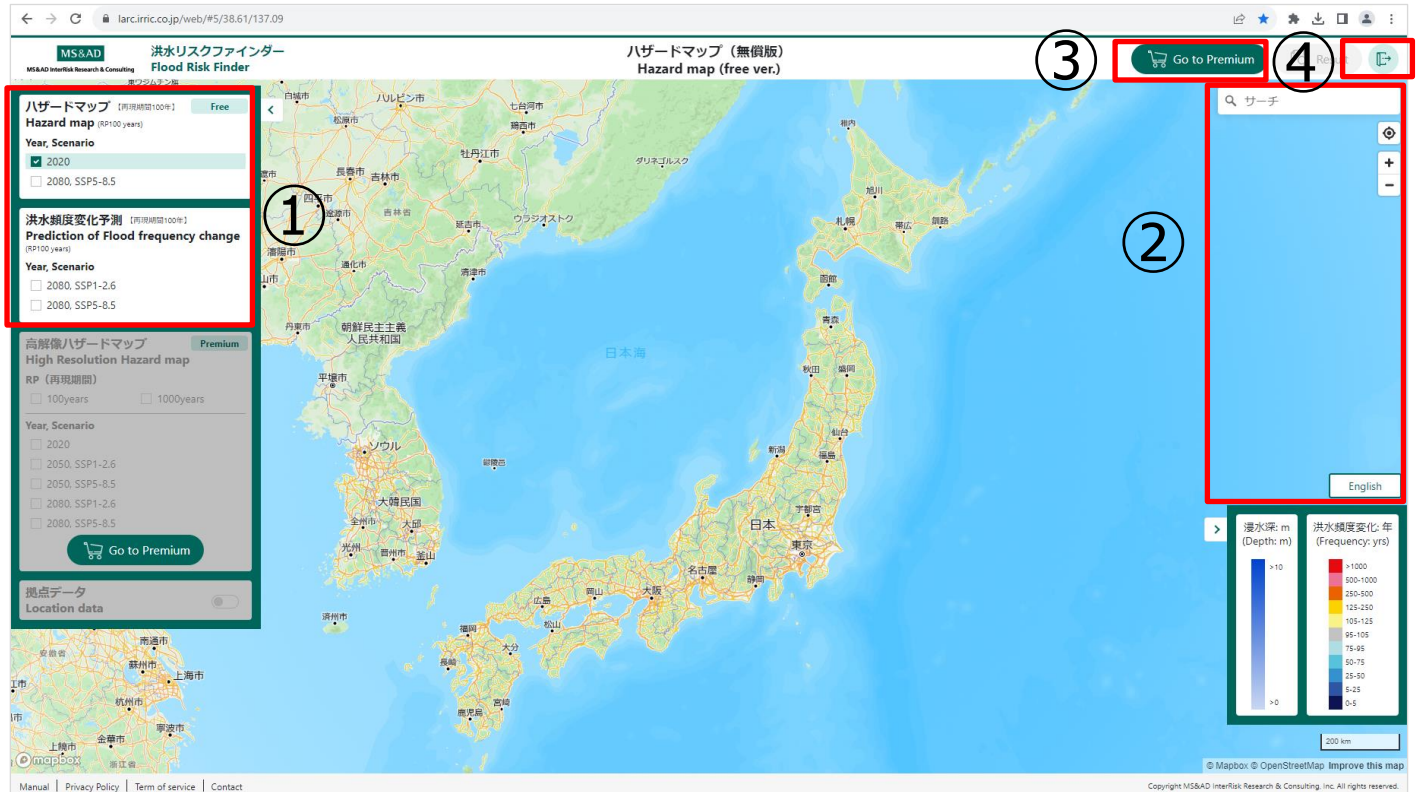


図 2 洪水リスクファインダー初期画面

① レイヤーの選択

- ・選択したいレイヤーをチェックします。ハザードマップ、洪水頻度変化予測ともに 2 種類ずつの選択レイヤーがあります。
- ・ハザードマップの詳細は [2.2 ハザードマップ（無償版）について](#)を、洪水頻度変化予測の詳細は [2.3 洪水頻度変化予測について](#)をそれぞれ参照ください。


② 場所の検索

- ・検索したい場所の「住所」または「緯度、経度」を【サーチ】欄に入力することで、指定の場所が表示されます。
- ・日本語の住所の場合、丁目や番地などの入力については、「東京都千代田区神田淡路町 2-105」と検索するより、「東京都千代田区神田淡路町 2 丁目 105」と検索するほうが精度が高くなります。
- ・📍をクリックすることで、ユーザーの現在地に移動します。（ただし、ブラウザ設定で「現在地の検索を許可」していないと、移動することができません。）
- ・+/- をクリックすることで、マップのズームレベルを変更することができます。詳細を確認したいときは【+】を、広範囲を確認したいときは【-】をクリックしてください。※マウスホイールでも同様に拡大縮小が可能です。
- ・【English】ボタンにより、[地図上の言語のみ](#)日本語から英語に切り替わります（他の箇所は日英併記）。

③ プレミアム版の購入申請

- ・ハザードマップについては、より高解像度な結果を確認できる有償のプレミアム版も提供しています。【Go to Premium】ボタンをクリックすると、プレミアム版の購入申請画面に遷移します。申請方法の詳細は [3. プレミアム版ハザードマップの購入申請手順](#)を参照ください。

④ ログアウトの方法

- ・  をクリックすることで、ログアウトが可能です。

2.2 ハザードマップ（無償版）について

（1）概要

本マップでは、2020年の現在気候と2080年の将来気候における、100年に1度の確率で生じる洪水での浸水深分布^{※2}を表示します。気候変動の将来シナリオは、IPCC第6次評価報告書で用いられているRCP（代表濃度経路）シナリオに基づいています。本マップでは、そのうち温室効果ガスの排出量が多く、気候変動が最も進行するSSP5-RCP8.5シナリオ^{※3}（以下「SSP5-8.5」と言います。）の結果が閲覧できます。

（2）無償版とプレミアム版の仕様について

無償版とプレミアム版の仕様については表1のとおりです。

表1 無償版とプレミアム版の仕様

	無償版	プレミアム版
		従量課金制
分析対象	河川洪水	
対象地域	全世界	全世界（ただし、高解像度ハザードマップの閲覧範囲は、入力した拠点の約2km四方内のみ）
空間解像度	約500m	約90m、日本のみ約30m
再現期間	100年	100/200/500/1000年
対象年代	現在/2080年	現在/2030年/2050年/2080年
気候シナリオ	SSP5-8.5	SSP1-2.6/SSP5-8.5
出力可能データ	-	各拠点の浸水深、被害額（再現期間ごと、期待値）、影響日数（再現期間ごと、期待値）
料金形態	-	10万円/1拠点 ※拠点数に応じたディスカウントあり
操作方法	2.2 (3)	購入後にマニュアルをお渡しします。

（3）操作方法

図3の赤枠の数字順に以下のとおり、操作方法を説明します。

- ① 左上のボックスにあるハザードマップの【2020】または、【2080,SSP5-8.5】のチェックボックスをクリックしてください。

※2 2080年の将来気候における洪水浸水深分布は、高精度な再解析データ、CMIP6に参加する9つの異なる気候モデルの出力データ、および最先端の河川・氾濫モデルを用いることで推計したものです。

※3 必ずしも将来の排出量がSSP5-8.5シナリオに従うわけではありません。ここで示すデータは複数ある**将来シナリオの1つであることに留意してください。**

- ② ハザードマップは、ズームレベルが9以上になると閲覧することができます。ズームレベルについては、URLで確認することができます※4。
- ③ 地図に浸水深マップが表示されます。地図上の浸水している任意の地点をクリックすると、詳細情報が表示され浸水深を確認することができます。
- ④ 凡例は右下に表示されているとおりです。

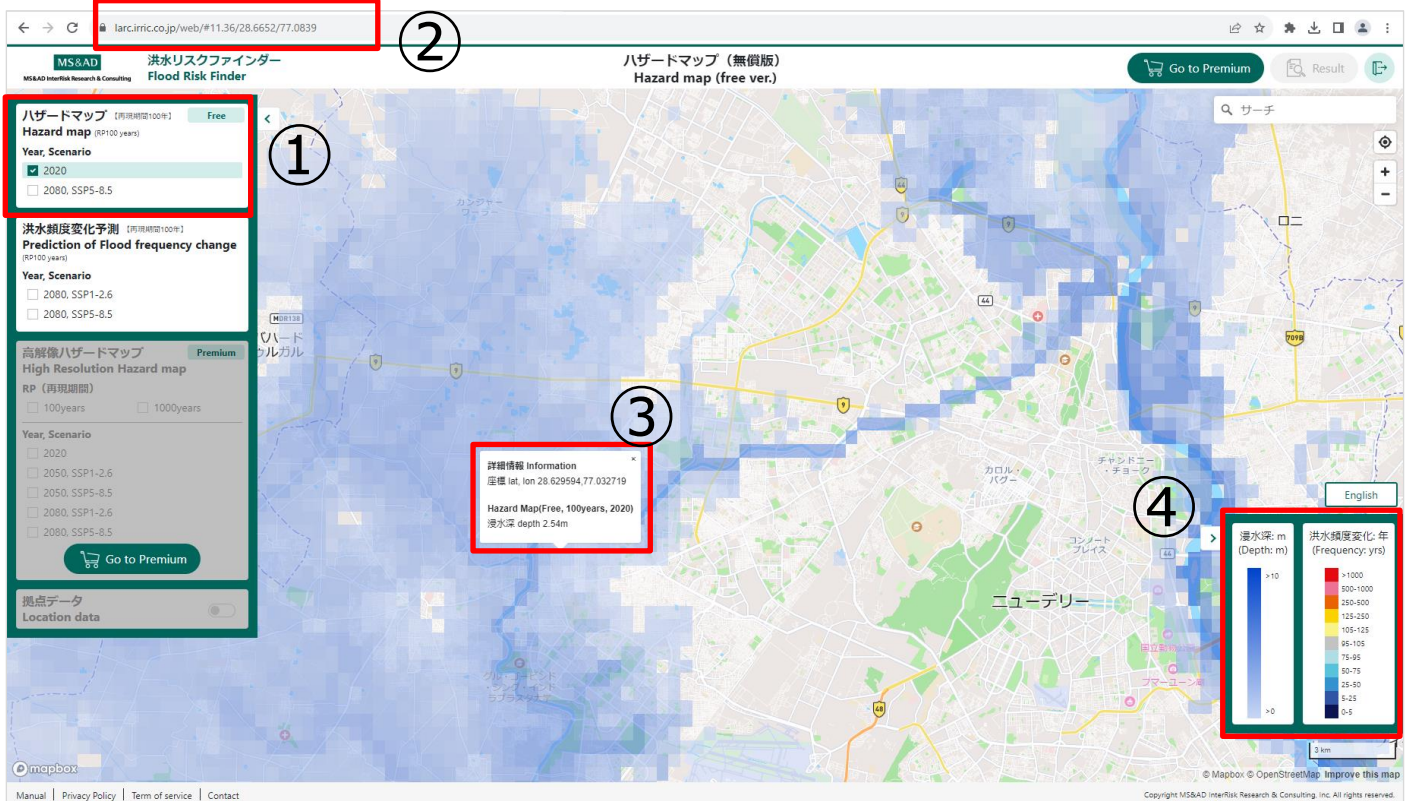


図3 ハザードマップ(無償版)の表示画面

(4) 解釈上の注意点

- ① マップで表示される「浸水深」は中央値です。数値シミュレーションの結果は幅を持っていることに留意してください。
- ② 本データの算出に用いた気候モデル・水文モデル・洪水氾濫モデルは、論文執筆※5当時の最先端のものを使用しましたが、まだ多くの不確実性が残っており、現実の水循環を完全に再現できるものではありません。今後のモデル改良に伴い、ここで示されているデータは更新される可能性があります。特に、今回の数値シミュレーションの枠組みには、洪水の防護情報は入っていない点に注意してください。
- ③ 本データの洪水浸水深は、河川からあふれた洪水によるものです。豪雨による都市の排水能力が追い付かず、浸水してしまう内水氾濫や高潮、津波による氾濫は含まれていません。

※4 例えば、図3では”<https://larc.irric.co.jp/web/#11.36/28.6652/77.0839>”となっていますが、赤字の”#”以降がズームレベルを指します。ズームレベルは URL を直接編集するほか、マウスホイール又は右上にある【+】または【-】で変更することが可能です。

※5 Kimura, Y., et. Al. Methodology for constructing a flood-hazard map for a future climate. HESS, 27, 1627–1644, 2023

2.3 洪水頻度変化予測について

(1) 概要

本マップでは、20 世紀末に 100 年に 1 度の確率で生じる洪水が、2080 年に何年に 1 度の頻度で生じる可能性があるか^{※6}を表示します。気候変動の将来シナリオは、IPCC 第 6 次評価報告書で用いられている RCP(代表濃度経路) シナリオに基づいています。本マップでは、そのうち温室効果ガスの排出量が多く、気候変動が最も進行する SSP5-8.5 の結果と気温上昇を 2 度未満におさえる SSP1-RCP2.6 シナリオ（以下「SSP1-2.6」といいます。）の結果の 2 つを閲覧できます。グリッドの大きさは 0.25 度（約 25km）です。

(2) 操作方法

図 4 の赤枠の数字順に以下のとおり、操作方法を説明します。

- ① 左上のボックスにある洪水頻度変化予測の【2080,SSP1-2.6】または、【2080,SSP5-8.5】のチェックボックスをクリックしてください。
- ② 地図に洪水頻度変化予測マップが表示されます。地図上の浸水している任意の地点をクリックすると、詳細情報が表示され浸水頻度変化を確認することができます。
- ③ 凡例は右下に表示されているとおりです。

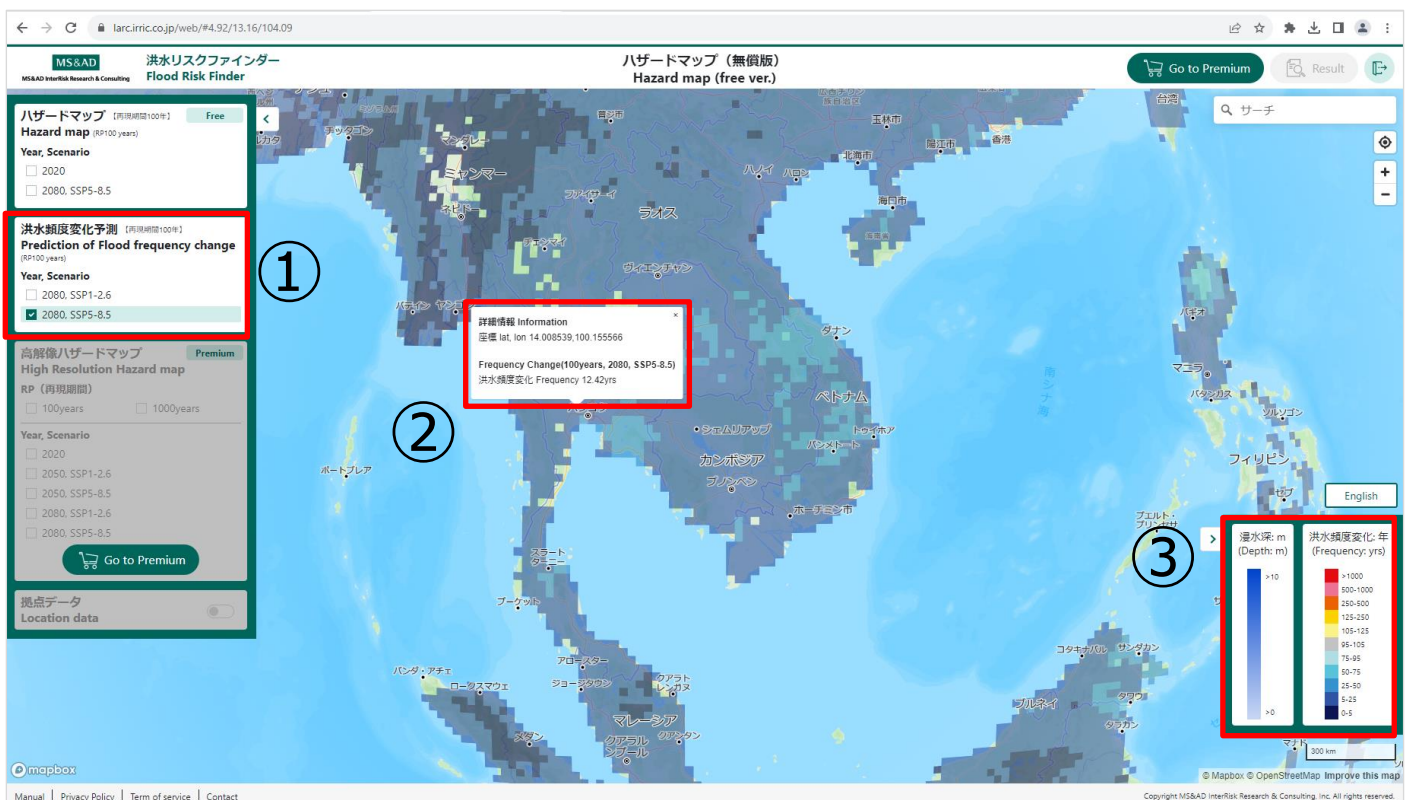


図 4 洪水頻度変化予測の表示画面

※6 CMIP6 に参加する 9 つの異なる気候モデルの出力データと最先端の河川・氾濫モデルを用いることによって、2080 年までの世界の洪水リスクの変化を推計しています。

(3) 解釈上の注意点

- ① マップで表示される「洪水頻度変化」は中央値であり、幅を持っていることに留意してください。
- ② 個々のグリッドの値ではなく、グリッドの属する河川流域単位で解釈してください。最下流の地点を流域の代表値としてみなすことを推奨します。
- ③ 本データの算出に用いた気候モデル・水文モデル・洪水氾濫モデルは、論文執筆^{※7}当時の最先端のものを使用しましたが、まだ多くの不確実性が残っており、現実の水循環を完全に再現できるものではありません。今後のモデル改良にともなってここで示されているデータは更新される可能性があります。特に、今回の数値シミュレーションの枠組みには、洪水の防護情報は入っていない点に注意してください。

3. プレミアム版ハザードマップの購入申請手順


3.1 購入申請の流れ

まず、対象拠点の情報をプラットフォームにアップロードして問題がないことを確認します。次に見積金額とご利用期間を確認して問題がなければ【購入確認(Confirm Purchase)】ボタンをクリックします。最後に各規約を確認して同意ボタンをクリックすると、購入申請が完了します。その後、弊社の承認手続きを経て、2〜3 営業日程度で利用開始となります。購入申請方法の詳細は後述の 3.2 節、3.3 節をお読みください。

なお、6 拠点以上を購入される場合はディスカウントが可能ですので、購入前に専用 HP からお問い合わせください。

3.2 拠点情報をプラットフォームにアップロード

洪水リスク・気候変動リスクを確認したい拠点の情報をアップロード用ファイルに入力し、プラットフォームにアップロードします。操作方法について、図 5 の赤枠の数字順に説明します。

- ① アップロード用のファイル (csv 形式) をダウンロードし、拠点情報を入力します。入力方法について [<アップロード用ファイルの入力方法・注意事項を参照ください>](#)
- ② ①で作成した csv データを【Upload location file】ボタンからアップロードします。アップロード時にエラーが発生した場合は、[参考 2. エラー関連の対応について](#)を参照ください。
- ③  ボタンで前画面のハザードマップ (無償版) 表示画面に遷移できます。

※7 Hirabayashi, Y., Tanoue, M., Sasaki, O. et al. Global exposure to flooding from the new CMIP6 climate model projections. Sci Rep 11, 3740 (2021).



図 5 プレミアム版ハザードマップの購入申請画面

<アップロード用ファイルの入力方法・注意事項>

アップロード用ファイルの各項目の概要と入力方法は表 2 のとおりです。またファイル作成時に注意いただきたい事項を表 3 に記載しているので、併せてご確認ください。

表 2 アップロード用ファイルの各項目の概要・入力方法

列の名前	概要・入力方法
Location name	拠点名（日本語も可能）
Lat	拠点の位置情報（緯度、小数点 6 桁までで入力ください）。
Lon	拠点の位置情報（経度、小数点 6 桁までで入力ください）。
Building	建物の資産価値を入力。整数値のみ。最大 12 桁まで。 (1,000 億を超える金額を入力する場合、千や百万の単位での入力を推奨)
Assets	償却資産・設備の資産価値を入力。整数値のみ。最大 12 桁まで。 (1,000 億を超える金額を入力する場合、千や百万の単位での入力を推奨)
Contents	在庫資産・商品の資産価値を入力。整数値のみ。最大 12 桁まで。 (1,000 億を超える金額を入力する場合、千や百万の単位での入力を推奨)
Floor	建物の階数を入力。整数値のみ。最大 2 桁まで。

表 3 アップロード用ファイル作成時の注意事項

No	アップロード時の注意事項
1	2 行目のサンプルデータとメッセージを削除し、2 行目から拠点情報を入力しているか。
2	緯度・経度の小数点は 6 桁以下になっているか
3	Building, Assets, Contents 等のデータは整数値となっているか。(最大 12 桁までしか入力できません。1,000 億を超える金額を入力する際は、千もしくは百万単位で入力してください。)
4	Floor は整数値となっているか。また、2 桁以下の値となっているか。

5	アップロードする拠点は 5,000 拠点未満となっているか。 (5,000 拠点以上を入力すると、ネットワーク環境次第で、エラーが発生する可能性があります。)
6	csv の文字コードは【BOM 付き utf-8】、もしくは【utf-8】になっているか ^{※8} 。 BOM 付き utf-8、utf-8 でない場合は、 参考 2.2 BOM 付き utf-8 への変換について を参照。

3.3 アップロードした拠点情報の確認と購入申請

図 6 の赤枠の数字順で、アップロードした拠点情報が正しいか確認して、購入申請を行います。

- ① 拠点一覧を確認し、正しく入力されているかを確認してください。特に緯度経度については、様々な理由（ジオコーディング機能の精度、測地系の違いなど）で意図している地点と異なる可能性がありますので、②の地図データを使ってしっかり確認してください。①の各行をクリックすると、②のマップ上に当該拠点がズームアップされます。
- ② ズームアップされた拠点の位置を確認し、意図した場所にピンが刺さっているかを確認してください。意図した場所と違う場合は、任意の場所にピンをドラッグ & ドロップすることで、場所を移動する事が可能です。移動後、②の右上にある位置情報修正をクリックすることで、緯度経度の場所を修正することができます（修正後は①の拠点一覧リストにも反映されます）。具体的な修正方法は、[<拠点一覧の緯度経度を修正する方法>](#)を参照ください。
- ③ 拠点一覧に問題がなければ、③で金額と使用期間（1年間）を確認してください。支払金額については、拠点×10万円が表示されますが、6 拠点以上を購入される場合はディスカウントが可能ですので、購入前に専用 HP からお問い合わせください。
- ④ 内容に問題がないことを確認し、【購入確認(Confirm Purchase)】ボタンをクリックすると、図 7 のポップアップが表示されます。各規約を確認し、同意ボタンをクリックすることで、購入申請完了となります。購入申請が完了したら、弊社の承認手続きを経て、2～3 営業日程度で利用開始となります。

MS&AD 洪水リスクファインダー Flood Risk Finder プレミアム版ハザードマップの購入申請 Gain Access to Premium Hazardmap

分析対象拠点のファイルをアップロードしてください。アップロードした拠点周辺のプレミアムハザードマップを購入できます。
Please upload a file containing the location information. You can purchase the Premium Hazardmap around each location.

アップロード用のファイルはこちらからダウンロードできます。You can download the template here.

Upload location file

拠点名 Location name	緯度 Lat	経度 Lon	建物 Building	設備 Assets	在庫資産 Contents	階数 Floor
sample1	34.79472	135.60912	10000000	5000000	3000000	4
sample2	-12.243449	34.010595	1000000	4000000	2000000	2
sample3	11.421267	105.163274	50000000	3000000	1000000	10
sample4	29.69421	121.462025	1000000	2000000	500000	5

位置情報修正
Click to revise the location

支払金額 Payment amount JPY 400,000
プレミアム版有効期限 Premium version expiration date (JST) 2024/12/26

購入確認 (Confirm Purchase)

図 6 アップロードした拠点情報の確認と購入申請画面

※8 文字コードの確認方法は、csv を「プログラムで開く」→「メモ帳」を選択。メモ帳の右下に文字コードが表示されます。

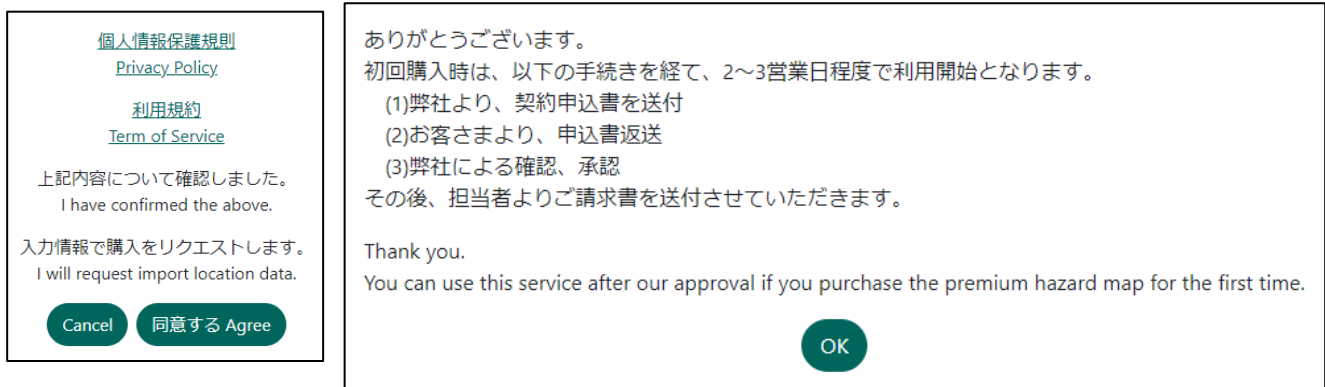


図 7 各規約の確認画面（左） 請求書送付に関する告知（右）

<拠点一覧の緯度経度を修正する方法>

ここでは図 6 ①拠点一覧の Sample1 の緯度経度を修正する方法を例に説明します。

- ・図 6 ①拠点一覧の Sample1 をクリックしてします。
- ・クリックすると Sample1 周辺が図 8 のとおりズームアップされます。**プレミアム版では、拠点周辺約 2km 四方（図 8 の黒枠）内の情報が閲覧できるようになります。**そのため、拠点の位置を確認することは非常に重要です。
- ・もし図 8 の赤ピンが意図している地点と違う場合は、赤ピンをドラッグ&ドロップ（図 8 の①）し、右上の【位置情報修正】ボタン（図 8 の②）をクリックすることで任意の地点に移動することができます。（図 6 ①の拠点一覧の情報も修正されます。）

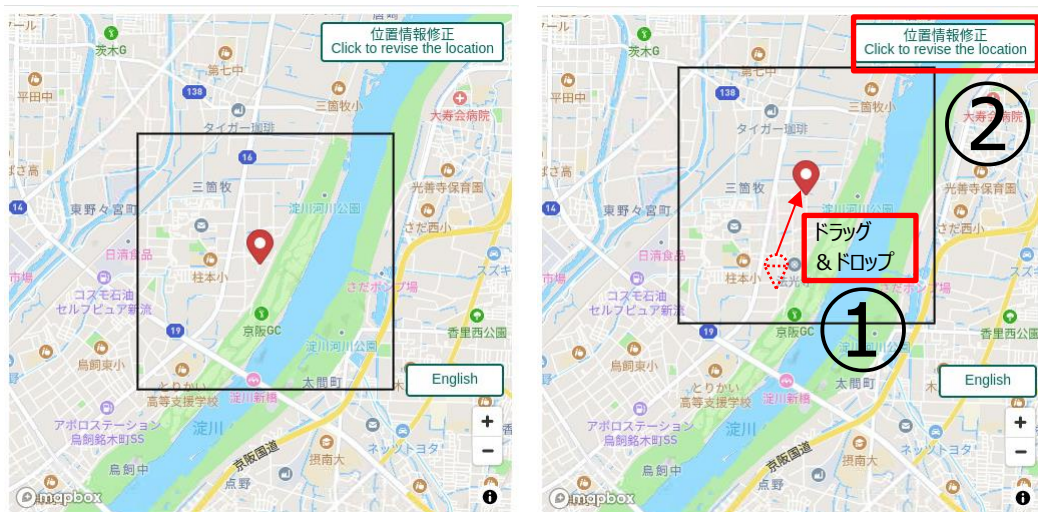


図 8 位置情報修正

4. 問い合わせ先など

<問い合わせ先>

以下のリンク先からお問い合わせください。

<https://www.irric.co.jp/lp/flood-risk-finder/info.php>

<専用 HP>

<https://www.irric.co.jp/lp/flood-risk-finder/index.php>

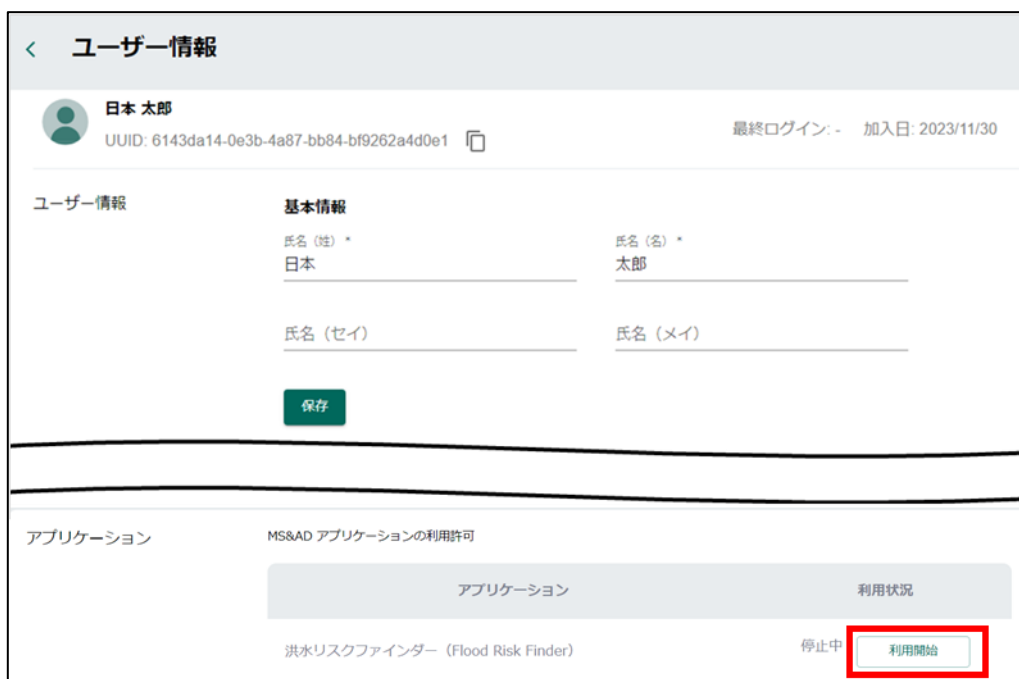
参考 1. 既存の InterRisk ID にアカウントを追加する方法

参考 1.1 ユーザーを 1 名ずつ追加する方法

- ① InterRisk ID の組織管理者サイト ([こちら](#)) にアクセスし、登録したメールアドレスと PW を使って、ログインしてください。
- ② ログイン後、左のメニューより、【ユーザー】を選択し、ユーザー画面に遷移します。その後、右上の【ユーザーを追加】ボタンをクリックし、表示されたプルダウンより【ユーザーを登録】を選択します。



- ③ ユーザー新規登録画面に遷移するので、登録するユーザーの情報を入力し、【入力内容の確認】ボタンをクリックしてください。内容に問題がないことを確認し、【登録する】ボタンをクリックします。登録が完了すると、登録したユーザーに InterRisk ID からメールが届きます。
- ④ ユーザー一覧に登録したユーザーが追加されていることを確認してください。
- ⑤ アカウント登録後に、ユーザーのアプリ利用開始を行います。洪水リスクファインダーの利用を開始するユーザーをクリックすると、ユーザー情報画面に遷移します。(以下の図は、「日本太郎」というユーザーを例として表示しています。)
- ⑥ ユーザー情報画面をスクロールすると、アプリケーションのリストが表示されます。洪水リスクファインダーについて、【利用開始】ボタンをクリックしてください。ここまでの作業でユーザーの追加は完了です。



参考 1.2 ユーザーをまとめて追加する方法

- ① 参考 1.1 ①と同様の手順でログインしてください。
- ② ログイン後、左のメニューより、【ユーザー】を選択し、ユーザー画面に遷移します。その後、右上の【ユーザーを追加】ボタンをクリックし、表示されたプルダウンより【ユーザーを一括登録】を選択します。
- ③ ポップアップ上の【空の csv テンプレートをダウンロード】ボタンをクリックし、出力形式を選択して csv をダウンロードします。ダウンロードした csv を任意のアプリケーションで開き、登録するユーザーの数だけ「姓、名、メールアドレス、初期パスワード」を入力します。
- ④ csv ファイルの編集完了後、【csv ファイルを添付】ボタンをクリックし、編集した csv を指定します。
- ⑤ 【csv ファイルを添付】ボタンの横に指定したファイル名が表示されていることを確認し、【アップロード】ボタンをクリックして複数ユーザーの一括登録を実施してください。

ユーザーの一括登録

1 CSVファイルをダウンロード
空のCSVテンプレートをダウンロード

2 Shift-JISで出力
UTF-8で出力 3)ユーザー情報を追加
メールアドレス、初期パスワードは必須項目です。
登録済みユーザーのメールアドレスと重複した場合は、登録処理はスキップされます。
既に他の組織のユーザーとしてInterRisk IDを登録されている場合は初期パスワードは適用されません。

A	B	C	D
姓	名	メールアドレス	初期パスワード
田中	太郎	tanaka@mail....	xRhjT#&Jz14...

3 CSVファイルを添付
CSVファイルを添付

キャンセル アップロード

出力形式	説明
Shift-JIS	主にExcel利用する場合に選択する
UTF-8	notepadなどのテキストエディターで利用する場合に選択

- ⑥ アカウント登録後に、ユーザーのアプリ利用開始を一括で行います。アプリ利用開始を行うユーザーの左端にチェックをいれて（複数選択して）、一覧上部のメニューより【アプリケーションの変更】ボタンをクリックします。
- ⑦ アプリケーションの利用設定を変更のポップアップが開くので、洪水リスクファインダーを選択し、【利用開始申請】トグルボタンを有効にしてください。ここまでの作業でユーザーの追加は完了です。

アプリケーションの利用設定を変更

ユーザー：2名

対象のアプリケーション
洪水リスクファインダー (Flood Risk Finder)

利用開始申請

クリックしてこの状態にする

キャンセル 変更

参考 2. エラー関連の対応について

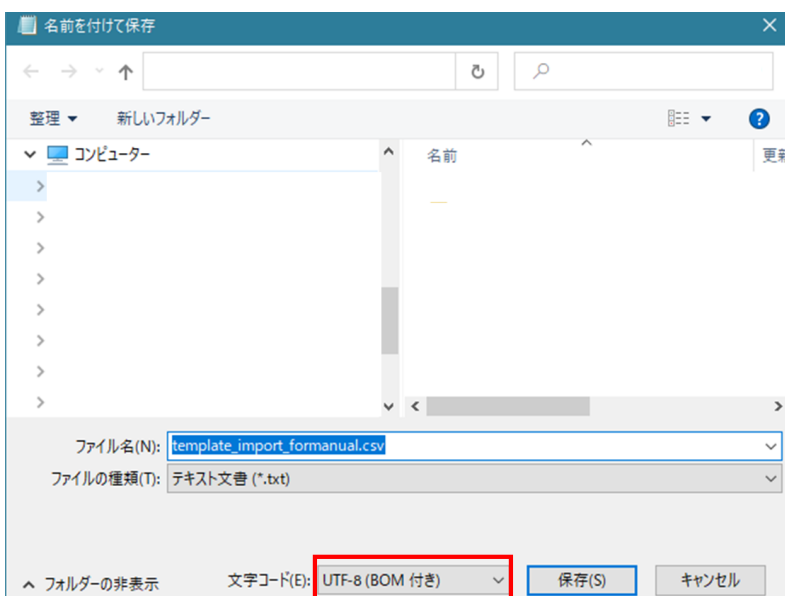
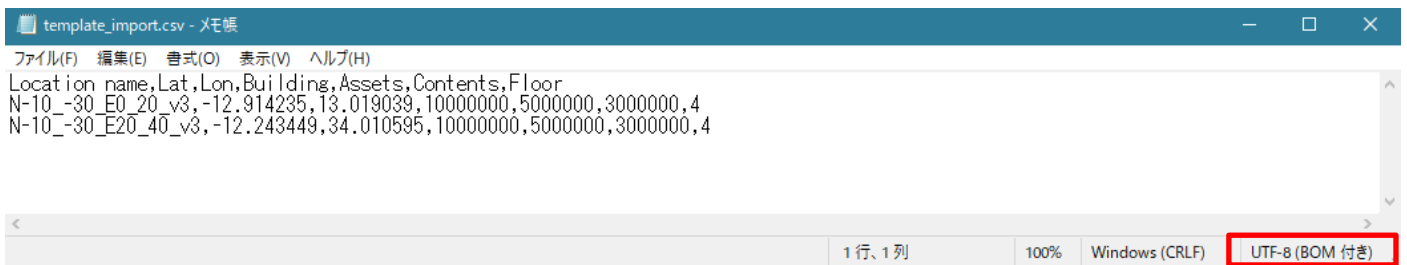
参考 2.1 アップロード用ファイル(csv 形式)アップロード時

エラー文	原因	解決策
〇〇行目の CSV フォーマットが不正です Invalid CSV format in row〇〇	所定の csv フォーマットでない。	ダウンロードした csv フォーマットを使用ください。 ダウンロードした csv フォーマットを使用しても、同エラーが生じるときは、以下 参考 2.3 “〇〇行目の CSV フォーマットが不正です”の解消方法について をご確認ください。
許可された文字コードではありません Invalid Character encodings.	文字コードが BOM 付き utf-8 ではない。	以下 参考 2.2 BOM 付き utf-8 への変換について をご確認ください。
許可されたファイルタイプではありません Invalid file type.	csv ファイルでない形式でアップロードしている。	csv の拡張子でアップロードください。
アップロードファイルに分析対象拠点がありません Uploaded file does not contain the location information.	分析拠点が何も入力されていない。	拠点を <input type="text"/> 入力して、再アップロードしてください。
ヘッダー行を付与して登録してください Header lines must be included and registered.	ヘッダー行を削除して、アップロードを行っている。	フォーマットで設定しているヘッダー行を残して、再アップロードしてください。
〇〇行目の列名〇〇の値が入っていません The value of column name 〇〇 in row 〇〇 is not included	csv ファイルの該当行について、必須項目が入力されていない。	必要項目はもれなく入力し、再アップロードしてください。数値が「0」の場合も 0 を入力ください。
〇〇行目の列名〇〇の値が範囲外です The value of column name 〇〇 in row 〇〇 is out of range	入力いただいた値が範囲外である。	Lat: -90～90 の範囲(小数点 6 桁まで) Lon: -180～180 の範囲(小数点 6 桁まで)で入力ください。
〇〇行目の列名〇〇の桁数が不正です The number of digits for column name 〇〇 in row 〇〇 is invalid	各列で指定している桁数と異なる桁数で入力している	Lat: -90～90 の範囲(小数点 6 桁まで) Lon : -180～180 の範囲(小数点 6 桁まで) Building、Assets、Content : 整数 (12 桁以下) Floor : 整数(2 桁まで)で入力ください。
〇〇行目の列名〇〇の型が不正です The data type of column name 〇〇 in row 〇〇 is invalid	各列で指定している型と異なる型で入力している	Location Name : 文字列 Lat、Lon:小数 Building、Assets、Content、Floor : 整数で入力ください。
〇〇行目に行目に許可されない文字が含まれています Row 〇〇 contains characters that are not allowed	csv ファイルの該当行の該当項目について、禁則文字が使用されていることが原因	以下ダブルクォーテーションマークの中に含まれる、文字は入力ファイルに含めないで、再アップロードしてください。

		"/" 、 "*" 、 "?" 、 "<" 、 ">"、 " "、 "="、 "+"、 "&" 上記および クォーテーションマーク (') と ダブルクォーテーションマーク(")
処理中にエラーが発生しました。お手数ですが下記 "contact" よりご連絡ください An error occurred during processing. We apologize for the inconvenience, please contact us using the "contact" below	通常は起きえない、システム系の異常系エラー。	プラットフォームのフッター部分の "contact" よりご連絡ください。

参考 2.2 BOM 付き utf-8 への変換について

- (1) csv ファイルをメモ帳で開きます。
- (2) 以下メモ帳の赤枠の文字コードを確認します。(以下のとおり、文字コードが utf-8(BOM 付き)であれば問題なく入力できます。)
- (3) 文字コードが utf-8(BOM 付き)でない場合は、メモ帳の「ファイル」⇒「名前を付けて保存」をクリックし、文字コードを utf-8(BOM 付き)に変更して保存ください。保存の際、ファイル名の末尾が「.csv」となっていることを確認してください。
- (4) (3) で保存したファイルを洪水リスクファインダーに入力してください。



参考 2.3 “〇〇行目の CSV フォーマットが不正です”の解消方法について

Excel のバージョンによって、うまく csv フォーマットが作成できない場合がございます。以下の手順で対応をお願いします。

- (1) csv ファイルを Excel で開き、入力したい拠点の情報を入力します。
- (2) 入力後、左上の「ファイル」⇒「名前を付けて保存」を選択し、下図赤枠の「ファイルの種類」を「CSV UTF-8(コンマ区切り) (*.csv)」として、任意のファイル名で保存してください。なお、ファイルの種類に「CSV UTF-8(コンマ区切り) (*.csv)」が存在しない場合は、「CSV(カンマ区切り) (*.csv)」を指定してください。
- (3) その後、保存したファイルについて、[参考 2.2 BOM 付き utf-8 への変換についての手順](#)で、文字コードが「utf-8(BOM 付き)」であることを確認してください。「utf-8(BOM 付き)」の場合は、同ファイルを洪水リスクファインダーに入力してください。文字コードが「utf-8(BOM 付き)」でない場合は、[参考 2.2 BOM 付き utf-8 への変換についての手順](#)に沿ってご対応をお願いいたします。



参考 3. 用語集

参考 3.1 気候変動関連

用語	説明
IPCC	Intergovernmental Panel on Climate Change : 気候変動に関する政府間パネル 世界気象機関 (WMO) および国連環境計画 (UNEP) により設立された政府間組織。各国政府の気候変動に関する政策に科学的な基礎を与えることを目的とし、おおむね 5~7 年ごとに評価報告書 (AR) を作成して気候変動に関する最新の科学的知見を提供している。
CMIP6	Coupled Model Intercomparison Project Phase 6 の略。気候変動を予測するための最新のモデリングツール集であり、これらのモデルは地球の大気、海洋、陸地生態系などの相互作用を詳細にシミュレートし、多くの研究機関が CMIP6 を使って、将来気候の影響予測に活用している。CMIP6 は、気候変動による地球の将来の変化を理解し、それに適応するための対策を立てるための重要なツールである。
SSP	Shared Socioeconomic Pathways : 共通社会経済経路 将来の社会経済の発展傾向を仮定した社会経済シナリオ。温室効果ガス排出削減が達成されるか、といった社会的な背景を設定する。気候変動の要因 (放射強制力) と組み合わせて使用される。IPCC 第 6 次評価報告書 (AR6) で採用された。 本分析ではこのシナリオを気候モデルに入力し、将来気候の予測を行う。
SSP1-2.6	持続可能な発展のもと、21 世紀末の気温上昇を 2℃未満に抑えるシナリオ。21 世紀後半には CO ₂ 排出量ネットゼロが見込まれ、CO ₂ 排出量を抑える技術も十分に発達している社会像である。気候変動による影響は一部残るものの、災害の激甚化はある程度抑えることができるとされる。
SSP5-8.5	化石燃料依存型の発展のもと、気候政策を実施しない社会像を表現したシナリオ。21 世紀末の気温は産業革命前の水準から 4℃程度上昇するとされる。気候変動に伴う影響が大きく、災害の激甚化等も想定される。
RCP	Representative Concentration Pathways : 代表濃度経路 2100 年の温室効果ガスの濃度レベルとそこに至るまでの代表的な経路を仮定したシナリオ。IPCC 第 5 次評価報告書 (AR5) で採用された。
RCP2.6	21 世紀末の気温上昇を 2℃以下に抑えるという目標のもと開発された、温室効果ガス排出量の最も低いシナリオ。
RCP8.5	21 世紀末における温室効果ガス排出量の最大排出量に相当するシナリオ。産業革命前と比較して 4℃程度の気温上昇が見込まれる。
気候モデル	大気や海洋などで起こる現象を物理法則に基づき数式化し、地球の気候をコンピュータ上で再現するプログラムのこと。本分析では「将来気候における降雨」などをシミュレーションしている。複数の研究機関が様々なモデルを公開しており、主に将来気候の長期的・定量的な予測に利用される。

参考 3.2 災害関連

用語	説明
河川洪水	大雨や融雪により河川の流量が異常に増加し、氾濫すること。

用語	説明										
再現期間	<p>ある規模を超えるような災害が、平均して何年に一度発生するかを示した指標。</p> <p>「再現期間 100 年」の洪水は「その規模を超えるような洪水が平均して 100 年に一度、つまり毎年 1/100 の確率で発生すること」を示す。再現期間が長い（大きい）洪水ほど規模が大きくなる。また、英語表記（Return Period）の頭文字をとり「RP」と表現することがある。</p> <table border="1" data-bbox="336 331 1230 510"> <thead> <tr> <th>再現期間</th> <th>発生確率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>再現期間 100 年</td> <td>1/100 = 1.0%</td> </tr> <tr> <td>再現期間 200 年</td> <td>1/200 = 0.5%</td> </tr> <tr> <td>再現期間 500 年</td> <td>1/500 = 0.2%</td> </tr> <tr> <td>再現期間 1000 年</td> <td>1/1000 = 0.1%</td> </tr> </tbody> </table>	再現期間	発生確率	再現期間 100 年	1/100 = 1.0%	再現期間 200 年	1/200 = 0.5%	再現期間 500 年	1/500 = 0.2%	再現期間 1000 年	1/1000 = 0.1%
再現期間	発生確率										
再現期間 100 年	1/100 = 1.0%										
再現期間 200 年	1/200 = 0.5%										
再現期間 500 年	1/500 = 0.2%										
再現期間 1000 年	1/1000 = 0.1%										

次ページ以降では、英語版のマニュアルを記載しております。

MS & ADインターリスク総研株式会社
 デジタルイノベーション本部 データアナリティクス部
 101-0063 東京都千代田区神田淡路町 2-101 ワテラストワー
<https://www.irric.co.jp/>



Flood Risk Finder (free version)

User's Manual

March 2024



MS&AD InterRisk Research & Consulting

1. Login to Flood Risk Finder

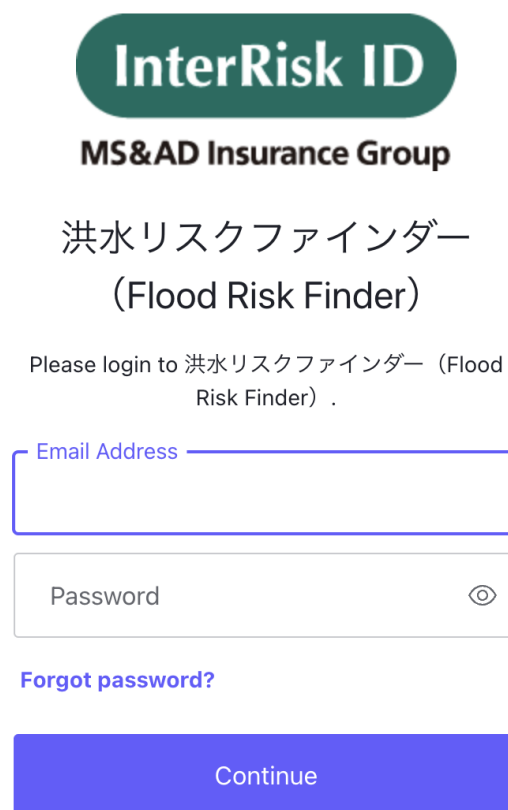
1.1 Registering an InterRisk ID and Account

When using the Flood Risk Finder for the first time, all users are required to create an account and register an InterRisk ID⁹. Click the sign-up button on the webpage of the Flood Risk Finder (hereafter “the webpage”) or click [here](#) to register.

To add an account to an existing InterRisk ID, see “[Reference 1. Adding Accounts to an Existing InterRisk ID.](#)”

1.2 Logging in to Flood Risk Finder

When clicking the login button or through “<https://larc.irric.co.jp/>”, users can access log in page shown in Figure 1. Enter registered e-mail address and password to log in.




InterRisk ID
MS&AD Insurance Group

洪水リスクファインダー
(Flood Risk Finder)

Please login to 洪水リスクファインダー (Flood Risk Finder) .

Email Address

Password 

[Forgot password?](#)

Continue

Figure 1. Login screen

⁹ InterRisk ID is a common ID for multiple services provided by MS&AD InterRisk Research & Consulting. This ID is issued when a service is used for the first time and required for subsequent use.

2. Operating Flood Risk Finder

2.1 Items on the Initial Screen of Flood Risk Finder

After logging in to the Flood Risk Finder, a map appears as shown in Figure 2. The following explains the map functions in red frames in Figure 2 in alphabetical order.

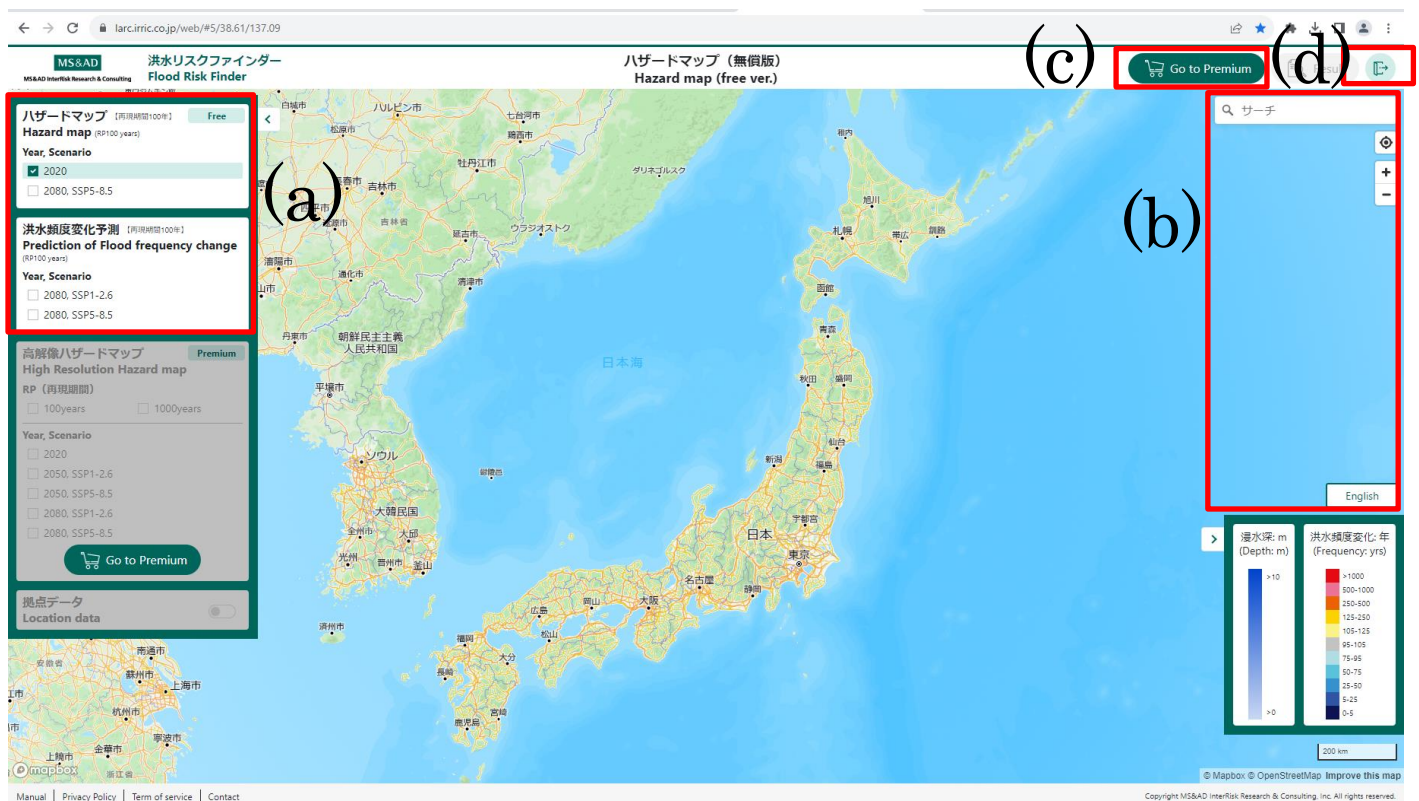




Figure 2. Initial screen of Flood Risk Finder

(a) Layer selection

- Select required layers by checking the boxes. Two layers are available both for the hazard map and the prediction of flood frequency change.
- For details on the hazard map, see “[2.2 Hazard Map \(free version\)](#),” and for details on the prediction of flood frequency change, “[2.3 Prediction of Flood Frequency Change](#).”

(b) Location search

- Enter the address or latitude and longitude of the locations required in the search field. The specified location will be listed.
- Click  to go to the current location of the user (allowed only when location services are enabled on the browser setting).
- Click  to change the zoom level on the map. Click [+] to see details or [-] to see a wider area. (Users can also zoom in and out with the mouse wheel.)
- Clicking [English] switches the language on the map from Japanese to English, and Clicking [日本語] switches from English to Japanese.

(c) Purchase request for the premium version

- The paid premium version displays the hazard map in higher resolution. Click [Go to Premium] to proceed to the next screen to submit purchase requests for the premium version of the hazard map. For details on purchase requests, see “[3. Requesting Purchase of Premium Version Hazard Map.](#)”

(d) Logging out

- Click  to log out.

2.2 Hazard Map (free version)

(1) Overview

The map shows the inundation depth distribution¹⁰ of floods with an occurrence frequency of once in 100 years in the current climate (in 2020) and the future climate (in 2080). The scenario for future climate change is based on the Representative Concentration Pathway (RCP) scenario used in the IPCC Sixth Assessment Report. In the map, users can view the results of the SSP5-RCP8.5 scenario,¹¹ in which greenhouse gas emissions are set to the highest and climate change is set to the most advanced.

(2) Specifications of the Free and Premium Versions

Table1 shows the Specifications of the Free and Premium Version.

Table1 Specifications of the Free and Premium Version

	Free	Premium
		Pay-as-you-go
Modelled Peril		River Flood
Regional coverage	Global	Global (Users can view information within a 2 km square area from locations imported.)
Spatial Resolution	Approx. 500m	Approx. 90m (Approx. 30m in Japan)
Return Periods(year)	100	100/200/500/1000
Modelled Year	2020/2080	2020/2030/2050/2080
Future Scenarios	SSP5-8.5	SSP1-2.6/SSP5-8.5
Output	-	Depth, estimated loss, affected no. of days (each RP, annual average)
Pricing Structure	-	JPY 100,000/1 location *When analyzing multiple locations, discounts are available.
How to use	2.2 (3)	After purchase, the manual will be provided.

10 The flood inundation depth distribution in the future climate of 2080 is estimated using high-precision reanalysis data, output data from nine different climate models used in CMIP6, and the latest river inundation models.

11 Future emissions may not necessarily meet the SSP5-RCP8.5 scenario. Please note that the data presented here is **only one of the several possible future scenarios.**

(3) Operation

The following explains how to operate map functions in red frames in Figure 3 in alphabetical order.

- (a) Enter a checkmark for either [2020] or [2080, SSP5-8.5] on the “Hazard map” section on the upper left.
- (b) The hazard map is visible when the zoom level is nine or higher. Users can check the zoom level with the URL¹².
- (c) Inundation depths appear on the map. Click any flooded spot on the map to display flood depth and other details.
- (d) Legends are located on the lower right.

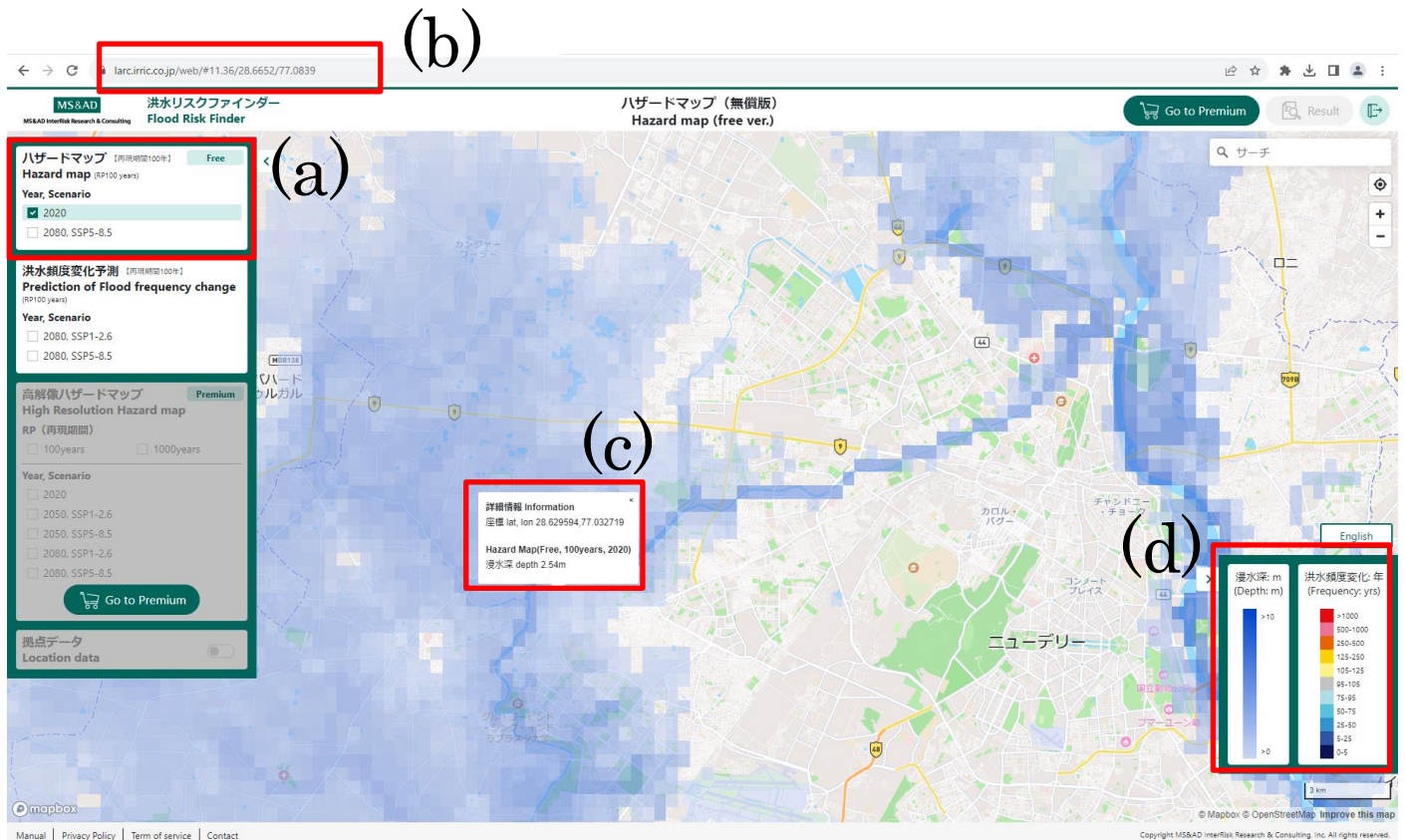


Figure 3. Display screen of Hazard Map (free version)

(4) Notes on Interpretation

- ① The inundation depth shown on the map is the median. Note that the results of numerical simulations have a range of variability.
- ② The climate, hydrological, and flood inundation models used to calculate these data were the most up-to-date models at the time the papers¹³ were published; however, many uncertainties still remain and the actual water cycles cannot be completely reproduced. Data shown here may be revised as the models improve in the future. It should be particularly noted that the framework of this numerical simulation does not include flood protection information.

12 In the URL shown in Figure 3 (<https://larc.irric.co.jp/web/#11.36/28.6652/77.0839>), the figure following “#” (in red) is the zoom level. The zoom level can be changed using the mouse wheel, clicking [+] and [-] located on the upper right of the hazard map, or directly editing the URL.

13 Kimura, Y., et. al. Methodology for constructing a flood-hazard map for a future climate. HESS, 27, 1627-1644, 2023

- ③ The flood inundation depths in these data are for floods caused by river overflow. They do not include inland floods caused by heavy rainfalls exceeding cities' drainage capacity or flooding from high tides and tsunamis.

2.3 Prediction of Flood Frequency Change

(1) Overview

Figure 4. shows the frequency of a flood event in year 2080 with which the event magnitude of once in 100 years at the end of 20th century¹⁴. The scenario for future climate change is based on the Representative Concentration Pathway (RCP) scenario used in the IPCC Sixth Assessment Report. Users can view two types of results on this map—results of the SSP5-RCP8.5 scenario in which greenhouse gas emissions are the highest and climate change is the most advanced, and the results of the SSP1-RCP2.6 scenario where the temperature increase is limited to less than 2°C. The grid size is 0.25 degrees (about 25 km).

(2) Operation

The following explains how to operate map functions in red frames in Figure 4 in alphabetical order.

- (a) Enter a checkmark for either [2080, SSP1-2.6] or [2080, SSP5-8.5] on the “Prediction of flood frequency change” on the upper left.
- (b) Prediction of flood frequency change appears on the map. Click any colored spot on the map to display flood frequency change and other details.
- (c) Legends are shown on the lower right.

¹⁴ Changes in global flood risk by 2080 are estimated using data output from nine different climate models participating in CMIP6 and the most up-to-date river and inundation models.

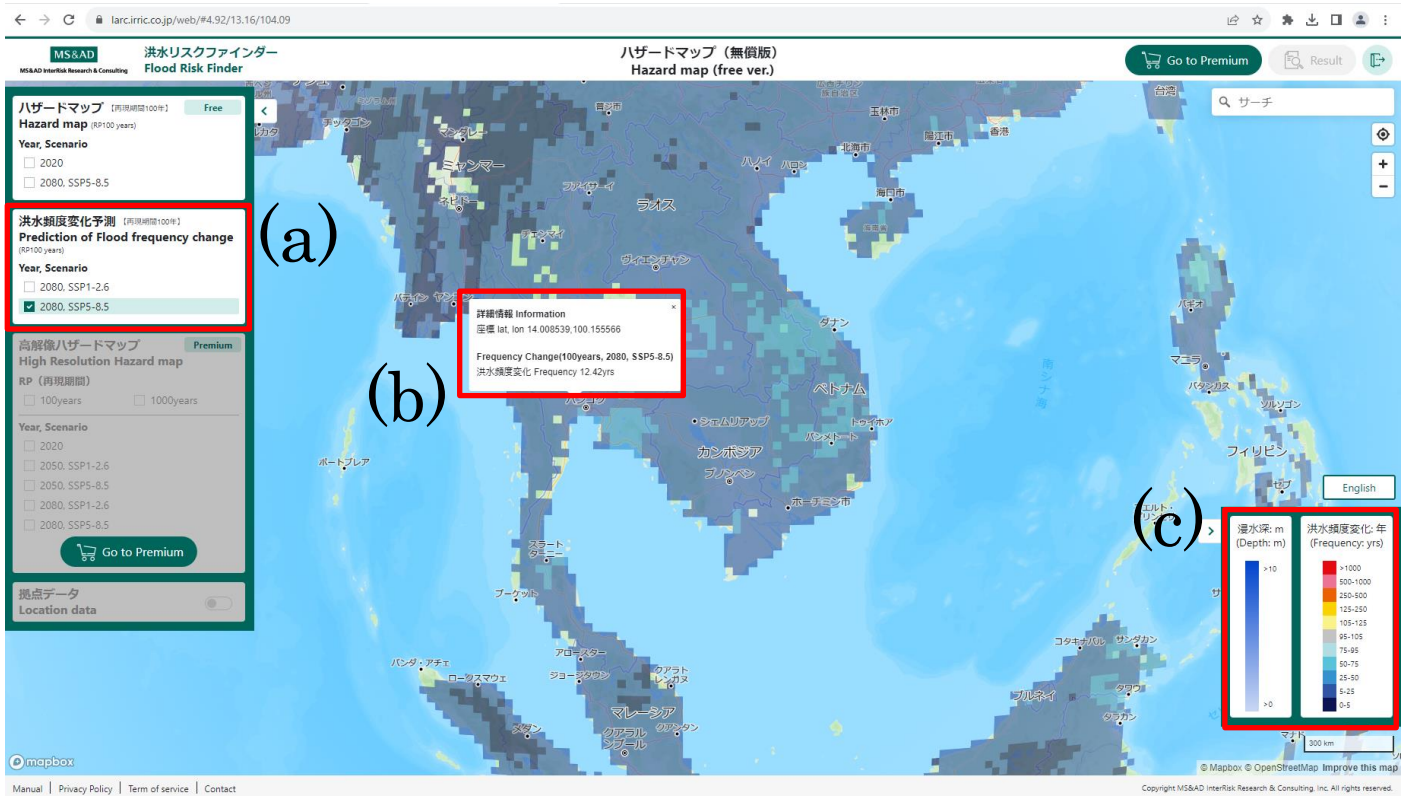


Figure 4. Display screen of prediction of flood frequency change

(3) Notes on Interpretation

- ① Note that the flood frequency change on the map is a median and has a range of variability.
- ② Interpret the values in a unit of the river basin to which the grid belongs, not the values for individual grids. It is recommended to use a downstream point as representative of the watershed.
- ③ The climate, hydrological, and flood inundation models used to calculate these data were the most up-to-date models at the time the papers¹⁵ were published; however, many uncertainties still remain and the actual water cycles cannot be completely reproduced. Data shown here may be revised as the models improve in the future. It should be particularly noted that the framework of this numerical simulation does not include flood protection information.

3. Requesting Purchase of Premium Version Hazard Map

3.1 Requesting Purchase Process

First, upload the information of the target location to the platform and check if the information entered is accurate. Next, confirm the payment amount and premium version expiration date (JST) and click [Confirm Purchase]. Finally, check the term of services and privacy policy and then click [Agree].

After the above process, users will be able to start using the service in about 2 to 3 working days, following our approval procedure. For details on how to apply for purchase, see section 3.2 and section 3.3 below.


Discounts are available for purchases of six or more locations. Please contact us via the webpage before purchasing.

¹⁵ Hirabayashi, Y., Tanoue, M., Sasaki, O. et al. Global exposure to flooding from the new CMIP6 climate model projections. *Sci Rep* 11, 3740 (2021).

3.2 Uploading Location Information to the Platform

In a file for upload, enter location information in the uploading template where users wish to evaluate flood and climate change risks.

The following explains how to operate map functions in red frames in Figure 5 in alphabetical order.

- (a) Download the file for upload (CSV format) and enter the location information. For instructions on how to enter information, see “<Entries and Notes on the Upload File>.”
- (b) Upload the CSV data created in (a) by clicking [Upload location file]. If an error occurs during the upload, see “Reference 2. Troubleshooting.”
- (c) Users can go back to the previous Hazard Map screen (free version) by clicking .

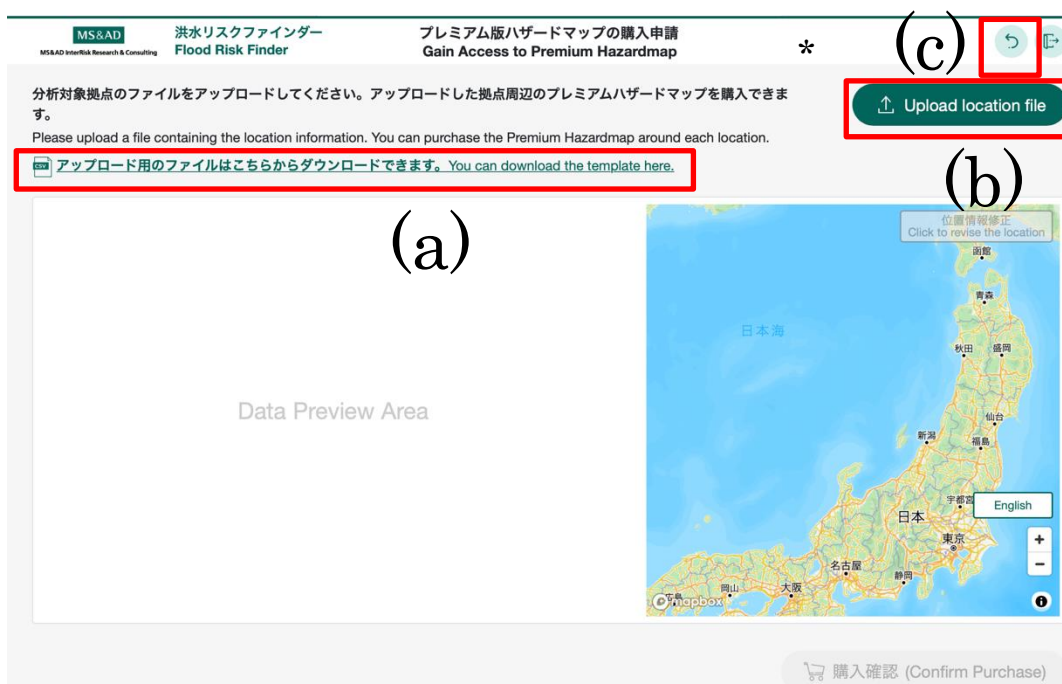


Figure 5. Purchase request screen for the premium version Hazard Map

<Entries and Notes on the Upload File>

Items in the upload file and how to enter the information are explained in Table 2. See also Table 3, which lists notes on creating files.

Table 2. Outlines and data entry format for items in the upload file

Header	Outlines and data entry format
Location name	Name of the location (can be in Japanese)
Lat	Location information (latitude, up to 6 decimal places)
Lon	Location information (longitude, up to 6 decimal places)
Building	Enter the asset value of the building. Integer values only. Up to 12 digits. (Numbers exceeding 100 billion should be entered in units of thousands or millions.)
Assets	Enter the asset value of the facility. Integer values only. Up to 12 digits. (Numbers exceeding 100 billion should be entered in units of thousands or millions.)

Contents	Enter the asset value of the products. Integer values only. Up to 12 digits. (Numbers exceeding 100 billion should be entered in units of thousands or millions.)
Floor	Enter the number of floors of the building. Integer values only. Up to 2 digits.

Table 3. Notes on creating upload files

No.	Notes on uploading files
1	Make sure to delete the sample data and a message in the second line, and enter the location information starting on the second line.
2	Enter the latitude and longitude with 6 decimal places or less.
3	Use integer values for the Building, Assets, and Contents fields. (Can be entered up to 12 digits. Numbers exceeding 100 billion should be entered in units of thousands or millions.)
4	Enter an integer value (either one or two digits) for the number of floors.
5	Locations in the file should be less than 5,000. (Entering more than 5,000 locations may cause an error depending on the network environment.)
6	Use the character encoding [UTF-8 with BOM] or [UTF-8] on the CSV file ¹⁶ . If the encoding is not UTF-8 with BOM or UTF-8, see “ Reference 2.2 Conversion to UTF-8 with BOM. ”

3.3 Confirming Uploaded Location Information and Requesting Purchase

In the alphabet order of the red frames in Figure 6, check the uploaded location information and request a purchase.

- (a) Check the Location List to see if the information entered is accurate. The latitude and longitude should be especially carefully checked with the map data of (b), as they may not be specified as intended for various reasons (e.g., the accuracy of the customer’s geocoding function and differences in the geodetic system). Click a line in (a) to zoom in on the corresponding location on the map of (b).
- (b) Check the zoomed-in location on the map and see whether the pin is at the intended place. If not, users can move the pin by drag-and-drop. After moving, users can modify latitude and longitude by clicking [Click to revise the location] on the upper right in (b) (Location List in (a) will also be updated). For specific procedures for correcting location data, see “[Modifying latitude and longitude in the Location List.](#)”
- (c) If the locations in the list are correct, check the payment amount and period of service (one year) in (c). The price is 100,000 yen per location. A discount is available a purchase of more than six locations. Please contact us from the webpage before submitting a purchase request. We will send you a price list.
- (d) Confirm the information entered by clicking [Confirm Purchase]. A dialog box in Figure 7 appears. Review the agreements and click [Agree] to complete the purchase request.

¹⁶ To check the encoding on the CSV file, select “Open With” and then “Notepad.” The encoding will be shown on the bottom right of Notepad.

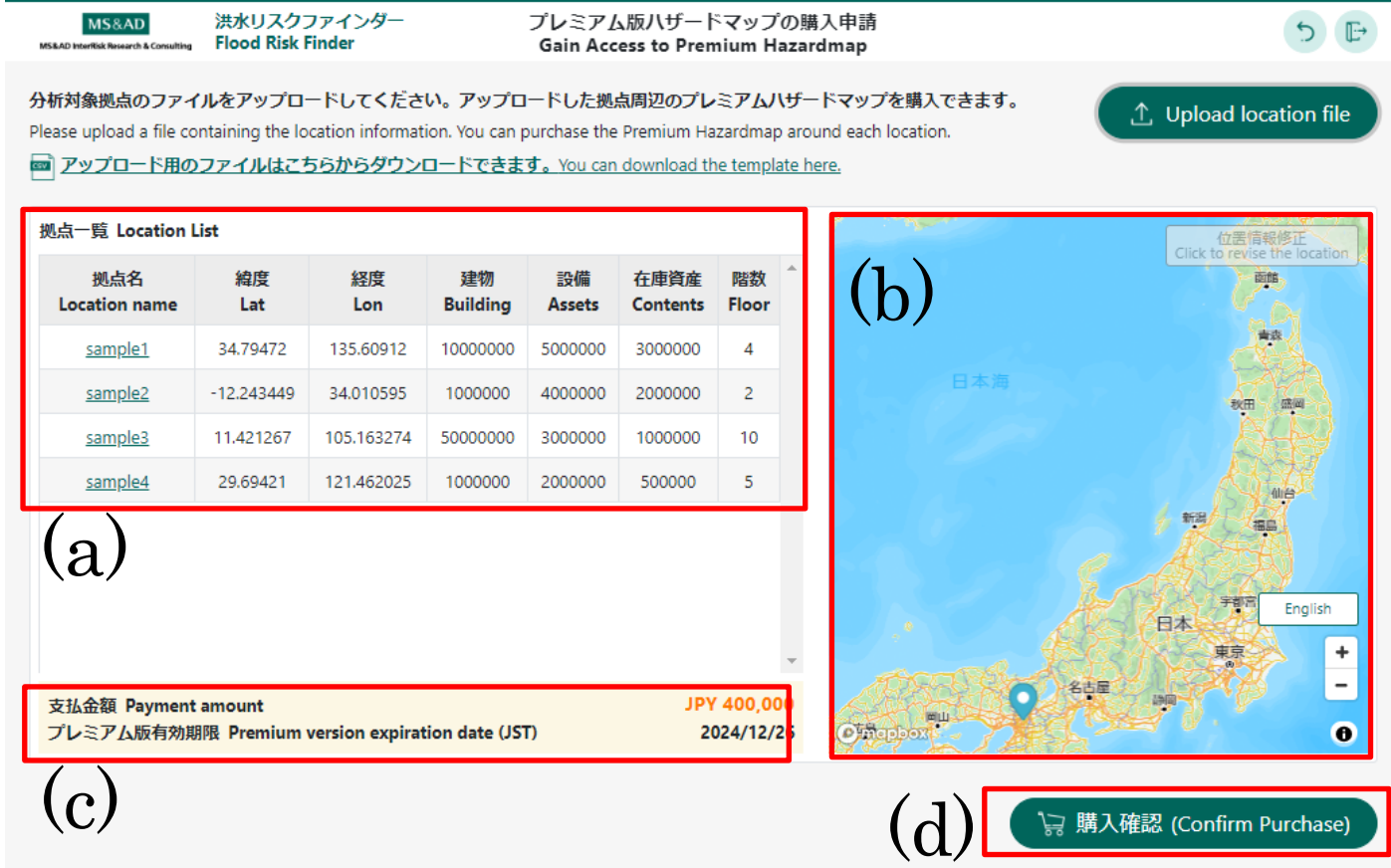


Figure 6. Screen for confirming uploaded location information and purchase application

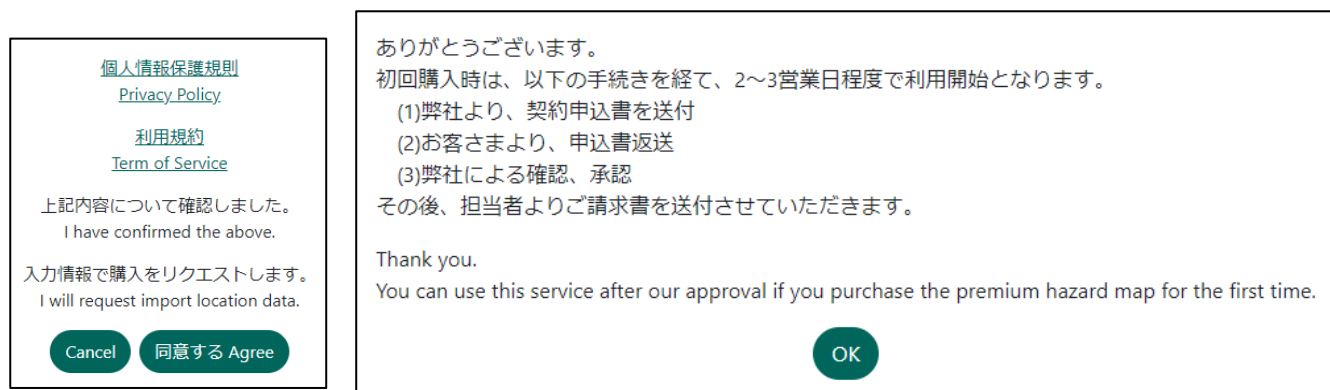


Figure 7. Screen to confirm agreements (left) / Notice regarding sending invoice (right)

Modifying Latitude and Longitude in the Location List

The following explains how to modify latitude and longitude in the Location List, taking sample1 in Figure 6 (a) as an example.

- Click “sample1” in the Location List in Figure 6 (a).
- The area of sample1 is zoomed in as shown in Figure 8. **With the premium version of the Hazard Map, users can view information within a 2 km square area around the location (enclosed in black in Figure 8).** It is very important to specify the location correctly.
- If the red pin in Figure 8 is not placed as intended, move the pin by drag-and-drop ((a) in Figure 8) and click [Click to revise the location] on the top right corner ((b) in Figure 8). (The information in the Location List (Figure 6 (a)) automatically revises itself.)

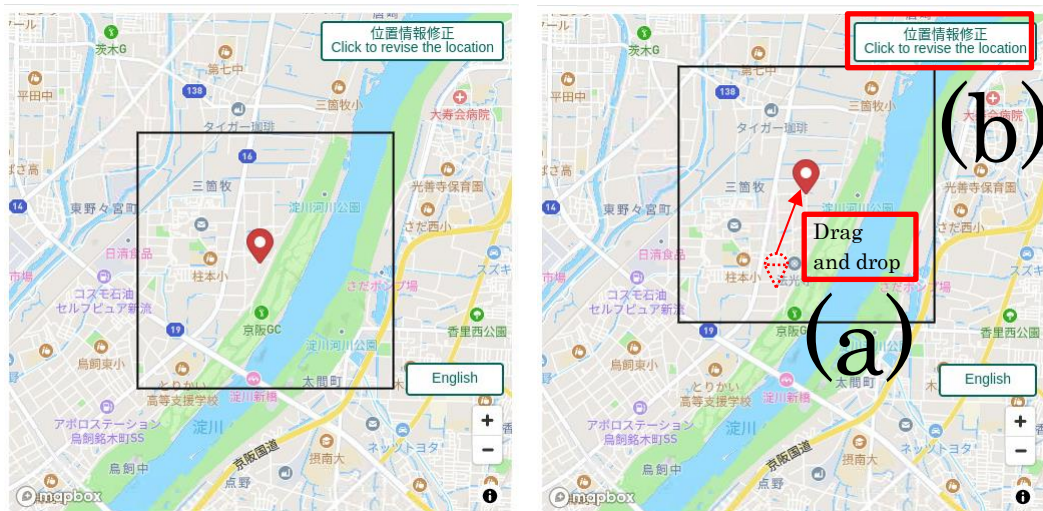


Figure 8. Revising location information

4. Inquiries, etc.

Contact

Please contact us from the link below.

<https://www.irric.co.jp/flood-risk-finder-gl/info.php>

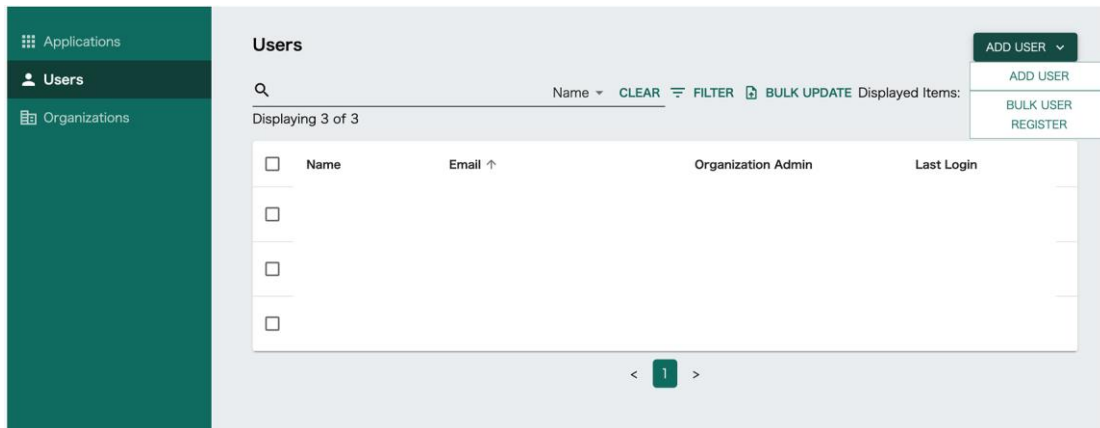
Webpage of Flood Risk Finder

<https://www.irric.co.jp/flood-risk-finder-gl/index.php>

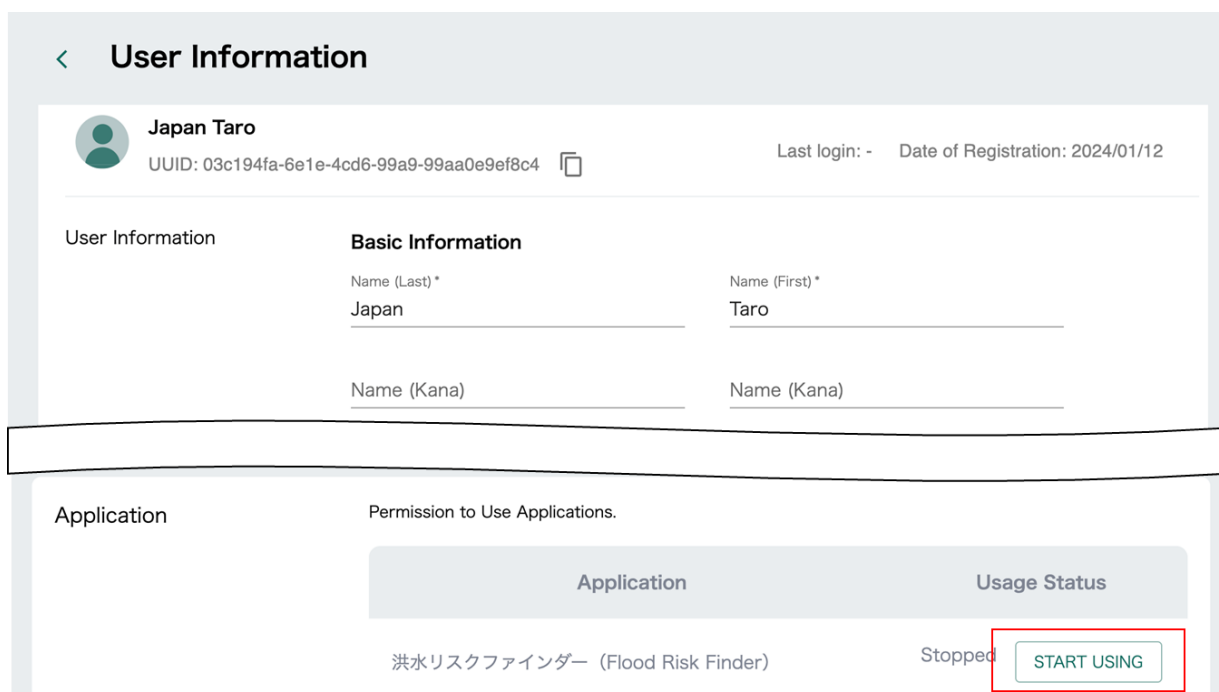
Reference 1. Adding Accounts to an Existing InterRisk ID

Reference 1.1 Registering Users One by One

- ① Go to the InterRisk ID Administrator site ([here](#)) and log in using a registered email address and password.
- ② After logging in, select [Users] from the menu on the left side of the screen. Then, click [ADD USER] on the upper right hand corner to select [ADD USER] from the pull-down menu.

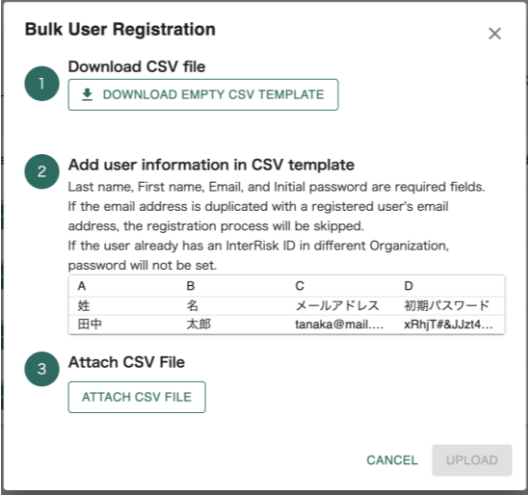


- ③ Users will be redirected to the new user registration screen. Enter user information and click [CONFIRM INPUT CONTENTS]. Confirm that the information is correct and click [REGISTER]. After registration is completed, an email will be sent to the registered user from InterRisk ID.
- ④ Check that the registered user is added to the user list.
- ⑤ After completing the registration, it is necessary to activate the user account for the application. Click the name of the new user to open the user information screen. (The following figure shows a user named “Japan Taro” as an example.)
- ⑥ Scroll through the user information screen to view a list of applications for the user. Click [START USING] for Flood Risk Finder. This completes the process of adding a new user.



Reference 1.2 Registering Bulk Users

- ① Log in in the same way as in Reference 1.1 (1).
- ② After logging in, select [Users] from the left menu to go to the user screen. Then, click [ADD USER] on the upper right and select [BULK USER REGISTER] from the pull-down menu.
- ③ Click [DOWNLOAD EMPTY CSV TEMPLATE] in the dialog box, select the output format and download the CSV data. Open the downloaded CSV file in the application of your choice and enter the first name, last name, email address, and initial password of all users for registration.
- ④ After editing the CSV file, click [ATTACH CSV FILE] and choose the edited file.
- ⑤ Check that the selected file name appears next to [ATTACH CSV FILE] and click [UPLOAD] for batch user registration.



Bulk User Registration [X]

1 **Download CSV file**
[DOWNLOAD EMPTY CSV TEMPLATE]

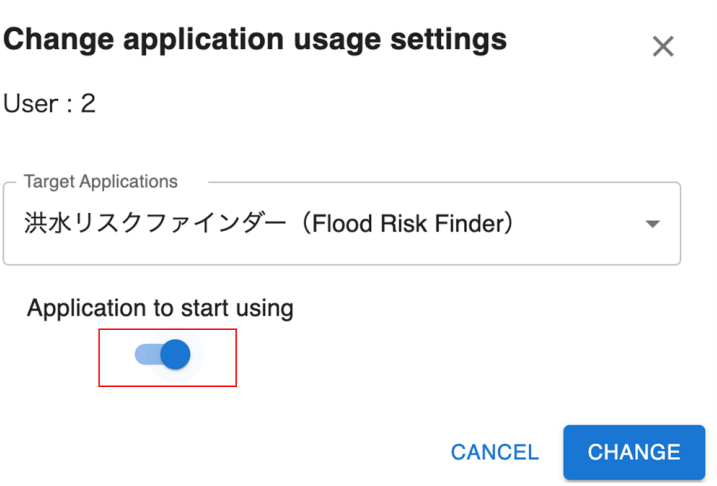
2 **Add user information in CSV template**
Last name, First name, Email, and Initial password are required fields.
If the email address is duplicated with a registered user's email address, the registration process will be skipped.
If the user already has an InterRisk ID in different Organization, password will not be set.

A	B	C	D
姓	名	メールアドレス	初期パスワード
田中	太郎	tanaka@mail....	xRhjT#&Jzt4...

3 **Attach CSV File**
[ATTACH CSV FILE]

[CANCEL] [UPLOAD]

- ⑥ After the account registration, enable users to start using the application collectively. Select checkboxes on the left of new users and click [MANAGE APPLICATION] from the menu above the list.
- ⑦ A dialog box for changing application usage settings appears. Select Flood Risk Finder and slide the toggle switch for [Application to start using] to on. This completes the process of adding bulk users.



Change application usage settings [X]

User : 2

Target Applications
洪水リスクファインダー (Flood Risk Finder) [v]

Application to start using

[CANCEL] [CHANGE]

Reference 2. Troubleshooting

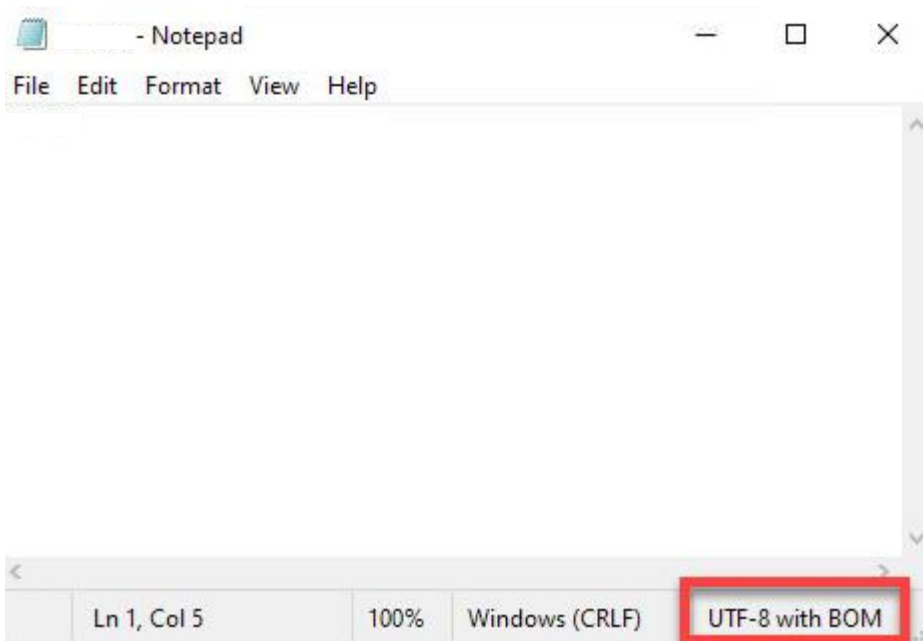
Reference 2.1 Errors Stemming from the Upload File (CSV format)

	Cause	Solution
〇〇行目の CSV フォーマットが不正です Invalid CSV format in row 〇〇	The file is not the designated CSV template.	Use the downloaded CSV template.
許可された文字コードではありません Invalid Character encodings.	Encoding is not UTF-8 with BOM.	See “ Reference 2.2 Conversion to UTF-8 with BOM. ”
許可されたファイルタイプではありません Invalid file type.	The uploaded file is not in a CSV format.	Upload the file with the “.csv” extension.
アップロードファイルに分析対象拠点がありません Uploaded file does not contain the location information.	No location information for analysis is entered.	Enter the location and re-upload.
ヘッダー行を付与して登録してください Header lines must be included and registered.	The header line had been deleted before uploading.	Retain the header line as set in the template and re-upload.
〇〇行目の列名〇〇の値が入っていません The value of column name 〇〇 in row 〇〇 is not included	The required fields are not filled in for the corresponding lines in the CSV file.	Fill in all the required fields and re-upload. Enter “0” when the number is “0” without leaving it blank.
〇〇行目の列名〇〇の値が範囲外です The value of column name 〇〇 in row 〇〇 is out of range	The value entered is out of the range.	Enter a number within the range. Lat: -90 to +90 (up to 6 decimal places) Lon: -180 to +180 (up to 6 decimal places)
〇〇行目の列名〇〇の桁数が不正です The number of digits for column name 〇〇 in row 〇〇 is invalid	The number of digits entered differs from what is specified for the column.	Enter a number within the range. Lat: -90 to +90 (up to 6 decimal places) Lon: -180 to +180 (up to 6 decimal places) Building, Assets, Contents: Use integer values (12 digits or less) Floor: Use an integer value (up to 2 digits).
〇〇行目の列名〇〇の型が不正です The data type of column name 〇〇 in row 〇〇 is invalid	The type of characters is different from what is specified for the column.	Enter a value. Location Name: Character string Lat, Lon: A number with a decimal point Building, Assets, Contents, Floor: Integer values
〇〇行目に許可されない文字が含まれています Row 〇〇 contains	The CSV file contains illegal characters in the fields where	Delete the following characters and re-upload:

characters that are not allowed	these characters are prohibited.	/, *, ?, <, >, , =, +, &, ‘, “
<p>処理中にエラーが発生しました。お手数ですが下記 "contact" よりご連絡ください</p> <p>An error occurred during processing. We apologize for the inconvenience, please contact us using the "contact" below</p>	An abnormal system error that does not normally occur.	Please contact us from [Contact] in the footer of the platform.

Reference 2.2 Conversion to UTF-8 with BOM

- (1) Open the CSV file in Notepad.
- (2) Check the character code in Notepad, enclosed in red below. (Editing is allowed when encoded in UTF-8 with BOM as shown below.)
- (3) When character encoding is not UTF-8 with BOM, click “File” then “Save as” in Notepad, change the character encoding to UTF-8 with BOM, and save the file.



Reference 3. Glossary

Reference 3.1. Terms on Climate Change

Term	Description
IPCC	<p>Intergovernmental Panel on Climate Change</p> <p>An intergovernmental organization established by the World Meteorological Organization (WMO) and the United Nations Environment Programme (UNEP). With the aim of providing a scientific basis for the policies on climate change formulated by the government of member states, the IPCC generates an Assessment Report (AR) approximately every five to seven years to offer the latest scientific knowledge on climate change.</p>
SSP	<p>Shared Socioeconomic Pathways</p> <p>Socio-economic scenarios that assume future socio-economic development trends. Social backgrounds, such as whether greenhouse gas emission reductions will be achieved, are set. They are used in combination with the factors of climate change (radiative forcing). SSP was adopted in the IPCC Sixth Assessment Report (AR6).</p> <p>In this analysis, the scenarios are entered into a climate model to predict the future climate.</p>
SSP1-2.6	<p>A scenario in which the temperature rise by the end of the 21st century is limited to less than 2°C under sustainable development. It is expected that CO₂ emissions will be net zero in the second half of the 21st century, and that the technology to reduce CO₂ emissions will be sufficiently developed. Although the effects of climate change will partially remain, it is assumed that the intensification of disasters will have been suppressed to some extent.</p>
SSP5-8.5	<p>A scenario showing a society that does not implement climate policies under fossil-fuel-dependent development. The temperature at the end of the 21st century is expected to rise by about 4°C from pre-industrial levels. The impact of climate change will be significant, and intensified disasters are expected.</p>
RCP	<p>Representative Concentration Pathways</p> <p>Scenarios with varying levels of assumed human activities and associated GHG concentration level projections in year 2100. They were adopted in the IPCC Fifth Assessment Report (AR5).</p>
RCP 2.6	<p>A scenario with the lowest greenhouse gas emissions, which was developed with the goal of limiting the temperature rise to 2°C or less by the end of the 21st century.</p>
RCP 8.5	<p>A scenario with the maximum amount of greenhouse gas emissions at the end of the 21st century. The temperature is expected to rise by about 4°C compared to pre-industrial levels.</p>
Climate model	<p>A program to reproduce the earth's climate on a computer by mathematically formulating phenomena that occur in the atmosphere and oceans based on the laws of physics. In this analysis, "rainfall in the future climate," etc. are simulated. Several research institutes have published various models, which are mainly used for long-term quantitative</p>

Term	Description
	predictions of future climates.

Reference 3.2 Terms on Disasters

Term	Description										
River flooding	Heavy rain or snowmelt causes an abnormal increase in the flow rate of a river and causes flooding.										
Return period	<p>Indicator of how often, on average, a disaster of a magnitude exceeding a certain magnitude occurs.</p> <p>A flood with a Return period of 100 years indicates that a flood of this magnitude occurs on average once every 100 years, i.e. with a probability of 1/100 of a flood occurring every year. The longer (larger) the return period, the larger the flood. It is also sometimes expressed as RP.</p> <table border="1" data-bbox="336 775 1232 1021"> <thead> <tr> <th>Return period</th> <th>Probability of occurrence</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Return period of 100 years</td> <td>1/100 = 1.0%</td> </tr> <tr> <td>Return period of 200 years</td> <td>1/200 = 0.5%</td> </tr> <tr> <td>Return period of 500 years</td> <td>1/500 = 0.2%</td> </tr> <tr> <td>Return period of 1,000 years</td> <td>1/1,000 = 0.1%</td> </tr> </tbody> </table>	Return period	Probability of occurrence	Return period of 100 years	1/100 = 1.0%	Return period of 200 years	1/200 = 0.5%	Return period of 500 years	1/500 = 0.2%	Return period of 1,000 years	1/1,000 = 0.1%
Return period	Probability of occurrence										
Return period of 100 years	1/100 = 1.0%										
Return period of 200 years	1/200 = 0.5%										
Return period of 500 years	1/500 = 0.2%										
Return period of 1,000 years	1/1,000 = 0.1%										